

第 56 回 関西財界セミナー 開催概要

公益社団法人 関西経済連合会
一般社団法人 関西経済同友会

第 56 回関西財界セミナーの開催概要につきましては、下記の通りとなりましたので、ご案内申し上げます。

記

1. 基本認識

これまで世界経済はグローバル化の進展に伴い拡大を続けてきましたが、昨年以來、BREXIT や米国トランプ政権誕生などに象徴されるような、潮目の変化が現れており、私たちは将来に不透明性を感じざるを得ません。

また、科学技術の分野に目を向けますと、AI、IoT、ビッグデータを活用する研究開発が、産業のみならず、社会の姿、ひとの暮らしのありように変革をもたらすインパクトを持つものとして急速に進展しています。

こうした中、わが国は、人口減少という新たな状況の下で社会経済の活力をいかに維持し、発展させられるかという、他国に例を見ない大きな課題に直面しています。一方、関西は近年、従来のものづくりの強みに加え、インバウンド観光客の増加にけん引される新たな成長分野が花開きつつあります。過去に関西経済界が種を蒔いてきたプロジェクトの果実をしっかりとわがものとし、将来へのさらなる発展への足掛かりを築く必要があります。国際博覧会の大阪・関西への誘致、文化庁の移転、そしてワールドマスターズゲームズの成功裡の開催などを通じて、人・企業・情報・イノベーションが集い、飛躍するグローバルな舞台として関西が発展するための動きを加速させるべき時です。

進取の精神、歴史・文化という有形無形の豊かな財産を持つ関西こそが、わが国、ひいてはアジア太平洋地域の中で個性ある存在感を高め、様々な課題への解決策、未来の経済社会像を模索し、世界に提示する役割を担うと確信します。

このような認識に基づき、第 56 回関西財界セミナーのテーマを「いざ、舞台を関西へ～関西からはじまる未来社会のデザイン～」としました。

両主催団体は、戦後間もない頃より、経済人自らが社会に役立つという使命感・志をもって、国家・地域の発展に寄与し続け、昨年度 70 周年を迎えています。時代の変革期において、東京に何もかもを求めるのではなく、関西として今、自らの力で何ができるのか、何をすべきなのか。関西の経済人のベクトルを合わせ、実行すべき具体策を導くべく、議論を行います。

2. 日 時 2018年2月8日(木)・9日(金)
3. 場 所 国立京都国際会館
4. テーマ いざ、舞台を関西へ～関西からはじまる未来社会のデザイン～
5. 主催 (公社)関西経済連合会、(一社)関西経済同友会
6. 協力 大阪商工会議所、京都商工会議所、神戸商工会議所
(公財)関西生産性本部、(一社)京都経済同友会、(一社)神戸経済同友会
7. 参加者 関西企業のトップ経営者約200名を含む600名程度
主要国の領事館関係者や全国紙の記者も多数参加

8. 2日間のスケジュール

2/8 [第1日]	10:00～10:05	5分	開会(国歌斉唱)
	10:05～10:15	10分	開会挨拶(鈴木代表幹事)
	10:15～10:35	20分	主催者問題提起(松本会長)
	10:35～11:45	70分	基調講演 (株)三菱総合研究所 理事長、 プラチナ構想ネットワーク会長 小宮山宏氏
	11:50～12:35	45分	昼食
	12:40～17:00	260分	分科会討議(途中、コーヒーブレイクあり)
	17:10～18:00	50分	交流会
2/9 [第2日]	09:00～12:20	200分	分科会討議(途中、コーヒーブレイクあり)
	12:25～13:25	60分	昼食
	13:30～14:10	40分	関西財界セミナー賞2018贈呈式
	14:20～15:20	60分	特別講演 (公社)上方落語協会会長 桂文枝氏
	15:30～16:00	30分	分科会議長報告
	16:00～16:10	10分	顧問団代表所感(家次会頭)
	16:10～16:15	5分	セミナー宣言採択(黒田代表幹事)
	16:15～16:20	5分	閉会挨拶(松本会長)
	16:30～16:50	20分	主催者代表記者会見
	16:30～17:20	50分	懇親パーティ

9. タイムテーブルと各分科会の概要

(敬称略)

2月8日(木)

◆全体会議 [10:00～11:45]

(1)開 会

(2)開会挨拶 鈴木博之 (一社)関西経済同友会 代表幹事

(3)主催者問題提起 松本正義 (公社)関西経済連合会 会長

(4)基調講演

講師：小宮山 宏 株式会社三菱総合研究所 理事長、
プラチナ構想ネットワーク 会長

演題：「プラチナ社会の実現－新ビジョン 2050－」

◆昼 食 [11:50～12:35]

◆分科会討議 [12:40～17:00 / 2月9日(金) 午前に続く]

第1分科会：関西の将来像を描く～国際イベントを通じて～

2019～2021年のゴールデン・スポーツイヤーズを目前に控え、また2025年国際博覧会の大阪・関西への誘致活動も本格化するなど、関西は世界に対してそのプレゼンスを示す絶好の機会を迎えている。こうした中で重要なことは、これら国際イベントを活用して、どのような関西を創造していくかの将来像を描き、共有し、その実現に向けて産学官が協力して取り組みを進めることである。

そこで本分科会では、スポーツや万博等の国際イベントを切り口として、関西がめざすべき将来像について討議する。万博誘致の目標である、国際社会の課題解決(SDGs)への貢献の視点も盛り込み、万博誘致の気運醸成にもつなげていく。

【議 長】

(株)大阪国際会議場 代表取締役社長 福島 伸一

(株)日本政策投資銀行 常務執行役員 関西支店長 池田 良直

【セッション構成】

- ① 関西の将来像を描く～国際イベントを通じて実現すべきこと～
- ② 人と知恵の交流の舞台・関西をめざして
- ③ スポーツが拓く未来社会

【問題提起者】

(株)三菱総合研究所 西日本営業本部長 原野 敏幸

国土交通省近畿運輸局長 坂野 公治

早稲田大学スポーツ科学学術院 教授 原田 宗彦

第2分科会：イノベーションを育む土壌～関西における産業集積に向けて～

昨今、欧米やアジア諸都市において、従来のビジネスモデルや業界、更には社会そのものを大きく変革するようなイノベーションが次々と起こっている。そうした中で関西が、アジア有数のイノベーション拠点となるためには何が必要なのか。海外のイノベーションが起こる仕組みと比較して関西に必要なエコシステムや、そのシステムを活用し注力していくべき次世代の産業分野とその振興策などについて、現状の関西の強みを踏まえつつ議論する。

【議長】

西日本電信電話(株) 相談役 大竹 伸一
川崎重工業(株) 顧問 牧村 実

【セッション構成】

- ①イノベーションをめぐる国内外の状況と関西のポテンシャル
- ②持続的なイノベーション創出を実現する関西エコシステムの形成
- ③次世代の関西をけん引する産業分野と振興策

【問題提起者】

大阪大学 総長 西尾 章治郎
(株)みずほフィナンシャルグループ 常務執行役員 CDIO、
(株)Blue Lab 代表取締役社長 山田 大介
(株)日本総合研究所 調査部 関西経済研究センター長 石川 智久

第3分科会：関西—ONLY 1の魅力～文化×産業の力を活かした挑戦～

関西は、世界に誇る日本文化・経済の中心としての長い歴史を持つ。世界の都市間競争が激化する中、世界からヒト・モノ・カネが集まる、クリエイティブかつイノベーティブな魅力に溢れる関西を復活させるため、文化庁移転をきっかけとして、企業、行政、市民が、文化の持つ可能性をいかに産業振興につなげ、次世代へ伝えていくのかを議論する。

【議長】

(株)博報堂 特任顧問 坂上 和典
宝ホールディングス(株) 相談役 大宮 正

【セッション構成】

- ① 世界の中での関西の魅力
- ② クリエイティブ人材が集う都市、地域
- ③ ポスト 2020 の芸術・文化振興～文化庁移転をきっかけとして～

【問題提起者】

京都市立芸術大学 理事長・学長 鷺田 清一
コーン・フェリー・ヘイグループ(株) シニアクライアントパートナー 山口 周
(株)ニッセイ基礎研究所 研究理事 吉本 光宏

第4分科会：戦略としての働き方改革～真の生産性向上のために～

政府が企業に「働き方改革」を求めるなど、働き方の再考が迫られる中、働き方の何をどのように変えるのかを巡る議論が百出している。長時間労働の是正は必須である。しかし、それだけで働き方改革と言えるのか。本分科会では、現在の議論から抜け落ちている視座を見出したうえで、従業員の創造性を引き出し、企業の収益向上及び持続的成長につながる、真の働き方改革、雇用のあり方、そして経営者の役割について議論する。

【議長】

パナソニック(株) 取締役 常務執行役員 石井 純
(株)りそな銀行 取締役副会長 池田 博之

【セッション構成】

- ① デザイン思考で迫る「真の生産性向上」とは？
- ② 「生産性向上」に資する企業経営
- ③ これからの雇用のあり方

【問題提起者】

千葉商科大学 国際教養学部専任講師	常見 陽平
プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン(株) ヒューマンリソースズ(人事統括本部)ディレクター 執行役員	アルバート・ファン
(株)リクルートホールディングス 専門役員、リクルートワークス研究所 所長	大久保 幸夫

第5分科会：ルック・ウエスト

～アジアにおけるビジネスメイキングに向けて～

アジアは近年、世界の成長センターとして経済発展を遂げ、「教える日本、教わるアジア」という一方的な関係は変化しつつある。

これまで関西は、各国政府や経済団体との交流、企業による投資、行政官や経営幹部の人材育成などの取り組みを通して、このアジアの経済発展に貢献してきたが、関係性が変化しつつある今、関西が取るべき行動にも変化が必要となってきた。

実際、日本企業の国境を越えた経済活動は活発化し、海外M&Aや対外直接投資は過去最高を更新し、アジアからの対日直接投資もこの10年で10ポイント以上拡大し、投資元としてのアジア企業の存在感が増している。

そこで、東京との比較で戦略を考えるのではなく、「西のアジア」を観た戦略をつくる。これまでのアジアとの交流、人材育成の実績を基盤としつつ、アジアのダイナミズムを企業のビジネスにつなげて関西の活力につなげていく方策を議論する。

【議 長】

レンゴー(株) 代表取締役会長兼社長 大坪 清
丸紅(株) 執行役員 大阪支社長 橋本 雅至

【セッション構成】

- ① 変化するアジアとアジアを見据えた企業活動
世界経済の中でのアジア市場の重要性、変化するアジアについて問題意識を共有する
- ② 企業がアジアでビジネスを行う際の課題と解決策
「外の目」から見た関西の魅力と課題を抽出し、今後の戦略を考える
- ③ 関西とアジアとの双方向コミュニケーションの必要性
アジアと関西との新たな関係構築をビジネス拡大に結びつける

【問題提起者】

(一財)アジア太平洋研究所 主席研究員、
関西大学 経済学部教授 後藤 健太
(株)三井住友銀行 頭取 高島 誠
日本イーライリリー(株) 代表取締役社長 パトリック・ジョンソン

第6分科会：グローバル資本主義と21世紀の企業像

日本をはじめ先進国では低成長が続くとともに、所得格差の拡大や中間層の没落などが顕在化し、政治や社会の不安定要因となっている。資本主義はこのままでよいのか。本分科会ではまず、グローバル資本主義の功罪を整理し、今の経済のあり方を問い直す。その上で、持続可能性の高い経済成長を牽引していく21世紀の企業像を探るとともに、イノベーションを通じた健全な経済成長への道筋をつけるべく、議論する。

【議長】

(株)三井住友銀行 副会長
伊藤 雄二郎
伊藤忠商事(株) 常務執行役員社長補佐(関西担当) 深野 弘行

【セッション構成】

- ① グローバル資本主義の功罪と修正の方向
- ② 21世紀の「よい会社」像を探る
- ③ イノベーションの波のなかで「稼ぐ経営」とは？

【問題提起者】

大阪大学大学院 経済学研究科准教授 安田 洋祐
日本生命保険(相) 代表取締役副会長 古市 健
鎌倉投信(株) 取締役資産運用部長 新井 和宏
みずほ証券(株) エクイティ調査部チーフ株式ストラテジスト 菊地 正俊

◆交流会 [17:10~18:00]

2月9日(金)

◆分科会討議 [9:00～12:20 / 2月8日(木) から継続]

◆昼食 [12:25～13:25]

◆全体会議 [13:30～16:20]

(1) 関西財界セミナー賞 2018 贈呈式

(2) 特別講演 講師：桂 文 枝 (公社) 上方落語協会 会長

演題：商は笑なり～笑いが関西を元気にする～

(3) 分科会議長報告

(4) 顧問団代表所感 家 次 恒 神戸商工会議所 会頭

(5) セミナー宣言採択 黒 田 章 裕 (一社) 関西経済同友会 代表幹事

(6) 閉会挨拶 松 本 正 義 (公社) 関西経済連合会 会長

◆懇親パーティ [16:30～17:20] (並行して、主催団体トップによる記者会見)

以 上